

モデルプログラム G-2 日本語の特徴—初期段階で取り扱う文型—

ねらい	日本語初期段階で取り扱う文型に関する知識を得て、日本語基礎プログラムの文型指導等で、文法説明、例文提示、練習方法に生かせるようにする。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生(教員養成課程他) <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員(管理職含む) <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力(子どもの実態把握) <input type="checkbox"/> 捉える力(社会的背景の理解) <input checked="" type="checkbox"/> 育む力(日本語・教科の力の育成) <input type="checkbox"/> 育む力(異文化間能力の涵養) <input type="checkbox"/> つなぐ力(学校作り) <input type="checkbox"/> つなぐ力(地域作り) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(多文化共生社会の実現) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(教師としての成長)
主な内容	G 日本語の特徴
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60分
流れ(・項目)	活動(◇活動の工夫)
1. 母語ではない言語で、型を抽出する仕組みを理解する(5分)	1. 知らない外国語を聞く体験をする。 1) 多くの参加者にとってなじみのない外国語で、参加者に次々挨拶する。 2) わからない音の中でも繰り返された挨拶のことばは耳に残ることを確認する。 3) パターンを繰り返すことが習得につながることを理解する。
2. 文型のしくみを理解する。(15分) ・音韻、文字・表記、語彙、文法(G)	2. 「文型」のなりたちを理解する。 1) 日本語基礎初期段階で取り扱う文型のリストを配付する。 2) 各文型の空欄にことばを入れ、例文を考えてみる。 3) ことばを入れるときに、そのまま入れるものと(例:教科書を)、形を変化(活用)させて入れるもの(例:見る→ <u>見て</u> ください)があることに気付く。 4) 3)で変化させたことばの品詞を整理する。 5) 文型のなりたち(名詞+助詞+動詞+助動詞等)を講師が整理する。 ◇1)で示した文型について、いくつか取り上げ、例文とともに説明する。
3. 日本語の動詞の活用について理解する。(30分) ・学校文法との違い(G)	3. 日本語の動詞の活用を整理する。 1) 学校文法の動詞の活用表と日本語教育の動詞の活用表を比較して、違いを考える。 2) なぜ日本語教育ではこのような活用の整理をするのかを考える。 3) て形から動詞の類型を考える。
4. 文型と機能の関係について考える。(10分) ・ことばの機能、表現の意図場面とことば(G)	4. 文型を場面や機能と結び付けて教えることの重要性を知る。 1) 初期段階で取り扱う文型から一つ選んで(例:～てもいいです)、具体的に学校生活のどのような場面で使うかを考える。 2) 表現意図や場面と結び付けて教えることの重要性を確認する。
備考	・I-3の基礎日本語の授業設計と合わせて実施できると、この時間に理解したことを文型指導の実践力として高められる。